

# 町政を問う

## 学校統合問題は住民との徹底した キャッチボールで合意形成を！



篠原 天

### 学校統合について住民との 信頼関係の構築に十分な配慮を！

### 教育長 進め方にいささか性急な面もあり、 今後は正し、建設的な議論を目指す

**篠原** 昨年十二月開催のタウンミーティングおよびパブリックコメント募集で寄せられた住民からの意見に対する回答は、どのように実施されるのか？

**教育長** 今後しかるべき時期に町のホームページ・広報誌上でお答えする。

**篠原** 今、予算案では、小学校統合に向け、統合校の校歌・校章等を検討する「小学校統合準備協議会」の予算が計上されている。住民への回答もないままの予算計上は、住民との信頼関係を損なうのではないかと？

**教育長** 同予算案については一部修正の申し入れを行う方向で検討している。

**篠原** 一方、中学校統合は、未だ説明と協議が不

充分との理由で、今後、改めて住民・保護者との協議の場を設ける方針だが、統合の是非も含め、一旦、白紙ということか？

**教育長** あくまで将来の合併を前提に、教育委員会の実施計画（案）に至った背景となる資料等を示し、解決すべき諸問題を住民、保護者の代表の皆さまに協議頂く。

**篠原** 中学校統合には、一定の結論が出るまでに時間を要すると理解するが、一方、老朽化著しい溝口中学校について、耐震化は急務と考える、どうか？

**町長** 耐震化はあくまで、学校の存続が前提であり、統合問題が議論されている状況下では、動きがとれない。ただし、当面、例えば向う十年間は現在

の学校配置で存続する可能性が見込まれるのであれば、今後の生徒数の減少も見越して、既存校舎の適正規模への減築を伴う補強等の手法が考えられる。この点は、他地域の実例等も検証しつつ、行政として、適正な公費運用の方策を検討してゆきたい。

### 可燃ごみ減量の 取り組みについて

**篠原** 今般、わが町では重要な決断をされた。すなわち、来年度から一部を米子市の施設に暫定搬入する当初計画を見直し、

廃止予定の福島の町施設を延命化。向う5年間は、福島の同施設と南部・伯耆共同施設の二拠点で可燃ごみを処理し、その後

は、総量の

三割削減を  
実現し、南  
部・伯耆共  
同施設に一  
本化すると  
いうもの。

ごみ処理を  
他自治体に  
依存せず、  
主体的に取  
り組む姿勢  
は、大いに  
評価するが、  
5年間で可  
燃ごみ三割  
削減への具  
体策を伺う。

**町長** 紙おむつのペレット燃料化、

食物残渣の生物化学処理による再資源化などの新たな社会実験と、従来からのコンポスト活用によ



南部・伯耆クリーンセンター

る家庭ごみの肥料化などを組み合わせて減量化に取り組む。